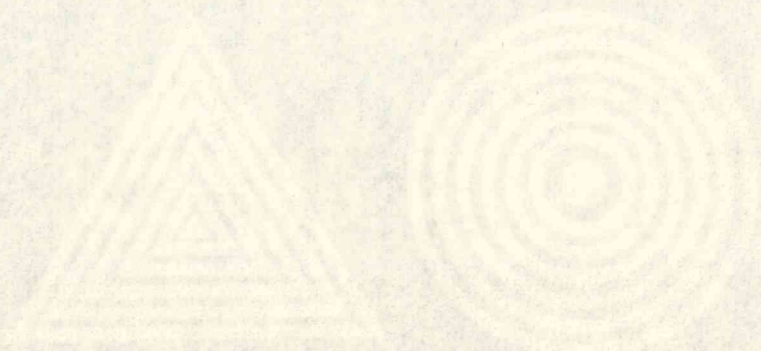


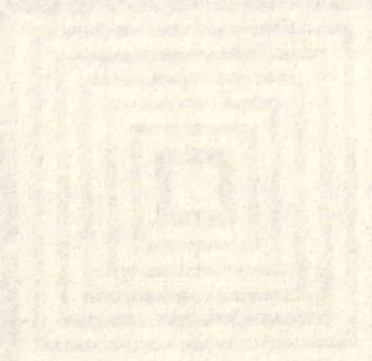
1998年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画



第88号
講義計画



林山安太郎

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		通 期	4 単位	橋 内 武
〔講義概要・学習目標〕 <p>民俗学は庶民が生活の中で伝承してきた文化を観察・記録する中から成立した学問である。その対象範囲は生活文化万般にわたるが、本講では、前期に人生儀礼・年中行事・俗信、後期に口承文芸（とくに昔話）を取り上げる。これらの文化事象を扱いながら、民俗の見方を手に入れることが学習目標となる。</p>	〔講義計画〕 <前期> 1. 民俗学とは何か 2. 人生儀礼 3. 年中行事 4. 俗信 <後期> 1. 口承文芸とな何か 2. 昔話の分類（むかし語り、動物昔話、笑話、形式話） 3. 昔話研究法（起源・歴史・構造・機能）			
〔成績評価の方法〕 <p>原則として試験による。但し、聞き書きまたは観察に基づくレポートを夏休み後に提出するとボーナス点が与えられる。</p>	〔参考文献〕 <p>赤田光男ほか編 『講座 日本の民俗学』 雄山閣 稲田浩二ほか編 『日本昔話通観』 同朋社</p>			
〔教科書〕 <p>上野和男ほか編 『新版 民俗調査ハンドブック』 吉川弘文館 稲田浩二・稲田和子編著 『日本昔話百選』 講談社文庫</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化研究（歴史） （旧日本文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	横 井 清
〔講義概要・学習目標〕 <p>おおよそのこととして言えば、毎授業時間に一つの小主題を設定して講義を行う。各小主題は、該当時間の始めに開示される。また、それぞれの小主題は特定の時代に限らず、一つの主題のもとでの講義の内容は原始から近・現代にまで自在に亘ることとなる。</p> <p>全体としては、日本文化を振り返ってみて、その特質について、あれこれと自力で考える楽しさというものを受講者に知らせて行きたいと思う。</p>	〔講義計画〕 <p>予め提示はせず、季節感覚、折々の社会・文化現象、受講者たちの関心の所在や方向性などを考慮に入れながら小主題を特定しつつ実施したい。</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>通年筆記試験による。</p>	〔参考文献〕 <p>必要に応じて、授業のなかで告げる。</p>			
〔教科書〕 <p>_____</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（中国文化） （旧中国文化研究Ⅱ）		通期	4 単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>伝統中国の理解のために知っておかなければならない基本的事項を身につけながら、多様な中国文化を学ぶ。現代世界においては、中国という巨大な存在を抜きにしてはかかなる問題も論じることができなとよく言われるが、そうした中国の独特の文化には前近代時期から継承されている要素が多く含まれている。「老中国」の文化の多様な表情を、なるべく平易で紹介して行きたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国という地域－空間の問題－ 2. 時間はどうか考えられたか－時間の問題－ 3. 「中国本土」とは－中国の南・北2つの世界－ 4. 中国世界の支配者像－皇帝とは－ 5. 中国の精神世界－儒・仏・道、三教の意義－ 6. 漢字の世界 7. 農耕国家としての中国 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>随時課すレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍する）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>随時授業中に紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>三田村泰助『黄土を拓いた人びと』生活の世界史 河出文庫 河出書房新社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文化史		通 期	4 単位	和 栗 珠 里
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>西洋の伝統的な建築様式とその様式が生み出された時代背景を見ていく。建築物は単なる箱ではなく、時代ごと、社会ごとの文化的特質を映し出す鏡であり、人々の宇宙観さえも体現する「形を持った哲学」である。講義ではまず、建築の価値が特に高まったイタリア・ルネサンスを中心に古代から現代までの様々な建築物のスライドを用いて視覚的に西洋建築に触れてもらい、少しずつその奥にある精神性に迫って行きたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近現代建築に見る伝統的建築様式 2. 古典主義様式 3. ゴシック様式 4. 均衡と不均衡 5. 庭園 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主に後期試験による。また、時々ミニ・レポートや感想文も提出してもらい、判断材料に加える。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>N. ベウスナー著 小林文次・山口廣・竹本碧訳 『新版ヨーロッパ建築序説』（彰国社）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋思想史		通 期	4 単位	山 川 偉 也
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>年間を通じての大テーマを「自然と反自然」として設定し、古代ギリシアから現代にいたる西洋思想の主要な潮流を総観する。その視点は主として「倫理」思想におかれるが、それがカバーする範囲は決して倫理のそれにとどまらず、宇宙論から生物学思想まで幅広い範囲が言及の対象となる。しかし、前期は主として「生命」の問題が、後期は主として「環境」ないし「世界」の問題が中心のトピックスとなる。その意図は、「生命」と「環境」が、今日ますます未来を生きるために重要な課題となってきたからにほかならない。</p>	<p>以下には年間講義の大略を示す指標として講義計画の概要を記す。細部については、講義の最初に伝えることにしたい。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題群 2. 自然と反自然 3. 西洋思想における自然と反自然 <ol style="list-style-type: none"> 1) ギリシア (1) 2) ギリシア (2) 3) 中世 4) 近世 (1) 5) 近世 (2) 4. 生命 <ol style="list-style-type: none"> 1) ギリシア (1) 2) ギリシア (2) 3) 中世 4) 近世 (1) 5) 近世 (2) <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) ギリシア (1) 2) ギリシア (2) 3) 中世 4) 近世 (1) 5) 近世 (2) 6) 現代 (1) 7) 現代 (2) 6. 自然と反自然をめぐる問題群 7. 生と死の問題 			
[成績評価の方法]	講義への参加態度、小テスト、期末試験等を総合して評価する。			
[教科書]	ギリシアに関するものとして 山川偉也『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学思想史		通期	4 単位	松永俊男
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>この講義では、科学とキリスト教の関係の歴史の変遷を考察する。17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。科学と宗教の安定した関係は19世紀の前半まで続いたが、19世紀の中頃に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。またこのころに、科学はキリスト教と闘争して発達したという歴史観が成立し、現在でも一般に広まっている。講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを解明し、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教の闘争史観が広まっているのかを考えていきたい。</p>	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コペルニクスはコペルニクスの転回をしていない 2. ガリレオ裁判の謎 3. ニュートンは錬金術師だった 4. 科学はキリスト教に奉仕するものだった 5. ヒュームとカントの科学論 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノアの洪水神話と地質学 2. 『種の起源』は神学書である 3. 進化論はキリスト教に取り込まれた 4. 科学と宗教の闘争史観の成立 5. ホワイトヘッドの科学論 			
[成績評価の方法]	受講生は多くないと予想されるので、平常点のみで評価する予定。			
[教科書]	[参考文献]			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（フランス文化）		通期	4単位	赤瀬雅子
<p>[講義概要・学習目標] 交通・通信手段の発達によって、ヨーロッパは近くなったとはいふものの、やはりわが国からは遙かに遠い存在である。そしてその遠い存在であるヨーロッパそのものは多様である。また多様でありながら、たしかにヨーロッパというひとつの文化圏を持っているのである。</p> <p>西欧中の西欧といえるフランスの文化は、確かに世界中から憧憬の眼を持って見られる文化のひとつであるが、時にアングロ・サクソンの文化圏からは、揶揄の対象としても見られる。</p> <p>フランス文化の本質は、重厚で農民的なものである。もちろん厚い信仰心が文化の基層に在ることも忘れてはならない。そしてもっとも重要なことは、絶えず世界のあらゆる文化を見つめ、その文化に憧憬を持ち、その文化を自己のものとして取り込む独特の才能であろう。このフランス文化の他の追随を許さないコスモポリタンな性格を考察する。</p>	<p>[講義計画] ヨーロッパ文化としてひとつに括ることのできる文化の特質とは何かを先ず考える。次いでフランス文化について学ぶが、特にこの文化の根底に在る厚い信仰の問題、農民的な精神に触れたい。同時に都会中の都会であるパリの文化を考え、そのコスモポリタンな文化の受容の姿勢を考える。</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かさないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>	<p>[参考文献] 饗庭孝男他著『フランス 絵画と文学の心』（小沢書店）</p>			
<p>[教科書] 小林 善彦著『フランス学入門』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（ドイツ文化）		通 期	4単位	高 田 里 恵 子
<p>[講義概要・学習目標] この講義では18世紀後半から現在までの、主要なドイツ文学の作品を取り上げていきます。その中で文学理論や文学用語、文学史にも触れていくつもりです。一つの作品につき、大体、2回の講義があてられます。作品に邦訳がある場合には授業中に指示しますので、なるべく原作を読んでもらいたいと望んでいます。また、映画化されている作品も多いので、2本から4本の作品をビデオで観る予定です。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代ドイツの戯曲 2 19世紀の政治と文学 3 20世紀の不安と文学 4 ファシズムという過去との対決 			
<p>[成績評価の方法] 夏休み終了後にレポート提出。 後期は試験を行う。</p>	<p>[参考文献] 授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書] 教科書は特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカ文化研究 (旧アメリカ文化研究Ⅱ)		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
[講義概要・学習目標] 何もなかった新大陸に移民たちが渡った時から、せいぜい300年くらいの間にヨーロッパ諸国に伍して世界をリードする超大国を作り上げたアメリカ人とは一体何なのか。アメリカ人はどのようにしてアメリカ人になったのか。そのエネルギーの本質はどのようなものなのか。アメリカには文化というにふさわしいものがあるのか。このような問題を考えながらHenry B. Parkesの著書を読み、これを補足し、批判し、さらに解説を加えながら講義を進める。	[講義計画] 1-5 アメリカ革命と独立 7-11 西部開拓 12 まとめ 13-20 宗教：アメリカ文化の根底 21 まとめ			
[成績評価の方法] 期末試験2回	[参考文献] 開講時に指示			
[教科書] Henry B. Parkes 著 The American Experience (研究社出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語		通 期	4 単位	山 本 浩 子
[講義概要・学習目標] インドネシア語は、マレー語を母体とするインドネシア共和国の公用語である。インドネシアの言語状況を手短かに述べておくと、他民族国家であるインドネシアは、各々の地域の民族がジャワ語やバリ語などの地方語を用いる一方で、マスコミ、政治、教育などの場において各民族の共通語としてのインドネシア語を用いている。 本授業では、まず初級インドネシア語の運用能力を身につけることを目標とする。簡単な会話文をもとに、最小限の文法事項を説明していく。前半では、学習の初期段階として、暗記が重要であると心掛けてほしい。 語学学習においては、実際に口に出して試みる、コミュニケーションすることが重要である。だが、それを実践する機会を継続的に持つことが最も難しいことである。授業終了後も、各自の必要に応じて独習できる基盤ができることを目標にする。	[講義計画] 〈前期〉発音、あいさつ・自己紹介の表現、人称代名詞、疑問詞の使い方、数量の表現、時の表現、基本的な前置詞と接続詞の用法、助動詞、関係代名詞 yang、接頭辞・接尾辞について(インドネシア語の造語法)、辞書の引き方 〈後期〉命令文、様々な接頭辞と接尾辞の用法、インドネシア語の態、小辞、表現を豊かにするための言いまわし、簡単な作文、読解、聞き取りの練習			
[成績評価の方法] 前期末と後期末に実施する筆記試験と授業参加度による。	[参考文献] 辞書については授業中に案内する。			
[教科書] 柴田紀男(著)『エクスプレスインドネシア語』(白水社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
貿易実務		通 期	4 単位	岩 根 典 夫
<p>[講義概要・学習目標] 1970～90年代のほぼ30年間、我が国においては、貿易の進展・盛衰いかんが日本経済の動向を左右するほどの大きな力となり今日に及んでいる。そして2000年を目途の間に迫り、人類はまさに新障壁なき(barrier-free)共生の地球市民の世紀を志向し前進している。</p> <p>この講義では、先ず序として人類世界の共生共栄の基盤としての国際貿易の必然性と重要性を概説し、ついで輸出、続いて輸入の順に区分し、その間に実施される貿易の実務を「講義計画」に記載されているところに従い概説する。講義には英文プリントを用意する。</p>		<p>[講義計画] <前期> 1. 序説: 人類世界の共生共栄の基盤としての貿易の役割 2. 輸出・輸入手続の概観(図表) 3. 輸出取引に必要な一般取引条件協定書(寢書) 4. <INCOTERMS> 解説 5. 取引(売)申込み及び承諾書</p> <p><後期> 6. 信用状(L/C) 7. 荷為替手形(Documentary Draft) 8. 船荷証券(B/L) 9. 海上保険(Marine Insurance)及海損等 10. 仲裁、L/G、T/R等</p>		
<p>[成績評価の方法] 定期試験の成績を主たる基準とし、これに出欠状態並に平常度を加えて評価する</p>		<p>[参考文献] 石田貞夫(編)『貿易用語辞典』(白桃書房)</p>		
<p>[教科書] 英文プリントを11頁次用意する。(教科書は使用しない。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論 (旧日本語表現論)		通 期	4 単位	有 川 康 二
<p>[講義概要・学習目標] 外国語学習に「おかしな」文はつきものである。(※:おかしな文。) a* 困ったらいつでも私へ来なさい。 b* 私が京都で撮ったの写真 c* 私の父は山田先生を知ります。 d* 先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。(丁寧に催促したい時) 何故おかしなのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「私に京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"="知る"だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るための百題の問が用意してある。それらの重要問題を解いていく。</p>		<p>[講義計画] <前期> 重要事項解説と問題の解答 <後期> 重要事項解説と問題の解答</p>		
<p>[成績評価の方法] 出席・筆記試験</p>		<p>[参考文献] 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味I』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味II』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味III』(くろしお出版)</p>		
<p>[教科書] 寺村秀夫(著)『日本語の文法(上)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書4)) 寺村秀夫(著)『日本語の文法(下)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書5))</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>言葉による表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめあげることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通である。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それと文や文章、発話の形にまとめあげられているのである。「語彙」とは、このような文章や発話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。</p> <p>この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙についていろいろ話題から考えさせたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 単語と語彙</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 単語の性質 2) 単語の形と意味 3) 単語の種類 <p>2. 語構成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 語の構成部分 2) 語構成(単語の分類) <p>3. 造語法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 造語法 2) 造語による音声変化 <p>4. 語彙の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 意味の関係(上下, 雅俗, 対義) 2) 意味の転化 3) 比喩 4) オノマトペ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験(半期科目であるので、前期1回)により評価する。 詳しくは、授業初日に説明する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>浜野百合子(著)『教師用日本語教育ハンドブック⑩ 語彙』(国際文化基金/Rinsen)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>森田良行・村木新次郎・柳沢正夫(編)『ケーススタディ・日本語の語彙』(おうふう(桜楓社))</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、このうちの後者の媒体となつて文字について、日本語の場合を扱う。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使われ方が複雑である。外国人の日本語学習者にとって日本語の文字・表記は理解が「大変で、ネグレクト」になりがちである。この講義では、日本語教育の立場から実際の場を教師に求めようとする文字・表記に関する知識と、授業実践に注意しなげたいポイントなどを考えたい。</p> <p>「書く」「読む」「書く」を履修した人も多いと思うが、日本語を「表記する」という点から見たときの「書く」の意味は「書く」と思ふ。学部・専攻に関係なく、日本語に興味・関心の及ぶ学生の受講を歓迎する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 日本語の表記法と基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字の表記法(「常用漢字表」) 2) ひらがなの表記法(「改定現代仮名遣い」) 3) カタカナの表記法(「外来語の表記」) 4) 送り仮名の付け方 5) ローマ字の種類と表記法 <p>2. 文字に関する知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字(六書, 部首, 画数, 字形等) 2) カナ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験(半期科目であるので、後期1回)により評価する。 詳しくは、授業初日に説明する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>国立国語研究所(編)『日本語教育指導書第14 文字・表記の教育』(大修館印刷局)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>富田隆行・森田和子(共著)『教師用日本語教育ハンドブック⑩ 新・表記』(国際文化基金/Rinsen)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ (旧日本語教授法)		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標] どんな教授法（教え方の哲学や方法）にも、どんな教科書にも各々長所と短所がある。要は様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、実践的な文法導入と練習方法についての議論やシミュレーションを行う。 初級文法は日本語学習者にとって継続学習の基礎となるもので責任も重い。一定の制限された状況や時間内に、日本語を母語としない人に日本語の体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習して「使える日本語」を身につけてもらう為には、教える側に特別な知識と技術が必要となる。 「何故、自分は外国語を学ぶのか。何故、自分は日本語を外国語として教えるのか。」といった日本語教育哲学に通ずるような問題意識も持ってほしい。	[講義計画] <前期> 初級文法項目解説、及び、練習方法の検討 <後期> 初級文法項目解説、及び、練習方法の検討			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）			
[教科書] 東京 YMCA 日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ (旧日本語教育教材論)	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標] 日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自作教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。 本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。	[講義計画] 前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。			
[成績評価の方法] 講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（13回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。	[参考文献]			
[教科書] 特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅱ (旧日本事情Ⅱ)		通 期	4 単位	岡 村 清 人
[講義概要・学習目標] <p>日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかわかりを持っているかについて講義を行う。第二次世界大戦後50年、日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日のセラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根拠についても追求する。</p> <p>次に、発展に従って、生活が豊かになるにつれて、リスクを負う状況にもある。例えば環境破壊などである。この二者のバランスに関しても講義を行う。</p>	[講義計画] <p><前期> 工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料の具体的な説明を行い、それらの明治、大正、昭和、平成における発展プロセス、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。</p> <p><後期> 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専心開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴うリスクについても説明する。</p>			
[成績評価の方法] <p>レポート、出席など総合的に考慮して評価する。</p>	[参考文献] <p>大石 嘉一郎(編)『日本産業革命の研究 上・下』(東京大学出版会) 堂丸 昌男・山本 良一(編)久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』(東京大学出版会) H. W. ルイス(著) 宮永 一郎(訳)『科学技術のリスク』(昭和堂)</p>			
[教科書] <p>講義資料を適宜配布する。</p>				

<L生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業英語	02	通 期	4 単位	岩 根 典 夫
[講義概要・学習目標] <p>日本での「商業英語」は、実質的には貿易取引の業務を行うにあたって使用される英語、いわゆる「貿易英語」である。そして日本において貿易取引に実際に使用されている言語の約90%は英語、約5%はスペイン語、残り約5%がフランス語、ポルトガル語、中国語、日本語等となっている現状である。</p> <p>このような事情のもとで、この講義では、米・英ビジネス通信の諸様式及び基本文型の習得の基礎の上に、貿易実務に必要な事項や専門用語等を英語により表現することを学ぶ。 <u>従って授業を欠席しないようつとめることが肝要である。</u></p>	[講義計画] <p><前期>(1)ビジネス英語の特質 (2)ビジネスレターの構成要素と形式 (3)取引書の申込み (4)信用照会 (5)引合及びオファー (6)取引一般条件協定書</p> <p><後期>(7)注文 (8)信用状(L/C) (9)船積 (10)決済 (11)苦情とその調整 (12)国際電気通信。</p>			
[成績評価の方法] <p>定期試験の成績を主たる基準とし、これに出欠状態並びに平常英を加えて評価する。</p>	[参考文献] <p>授業中に紹介・説明する</p>			
[教科書] <p>① 石井・大塚・福田(共著)『最新ビジネス英語-改訂版』(成美堂) ② 中村 繁(著)『テーマ英作文・日本』(金星堂) (注意)上記①及び②を2冊、学年始めに両者とも購入のこと。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a ドイツ語 I b	01 01	通 期 通 期	2 単位 2 単位	高 田 里 恵 子
[講義概要・学習目標] このクラスは、I a・I bの両方のクラスを高田が担当するので、週に2回、皆さんと会うことになります。 語学の習得のためには、継続と努力とが必要です。楽しい「会話」をするためには、まずは単語や文法を暗記しなくてはなりません。この点については覚悟しておいてください。 一年間でドイツ語の文法を一通り学ぶというのが目標です。まずは基礎を作るというわけです。授業は、かなりのスピードで進みますので、家での復習は欠かせません。 一年間、ともに学びましょう。	[講義計画] 1. ドイツ語とはどんな言語か 2. 冠詞と動詞の変化 3. 前置詞と接続詞 4. 動詞の時制 5. 助動詞 6. 再帰動詞と分離動詞 7. 受動態と関係代名詞 8. 接続法			
[成績評価の方法] 前期と後期に行う試験および平常点	[参考文献] 授業中に指示する。			
[教科書] 須崎・黒沢著 「あなたと私のドイツ語ディアログ」 同学社刊				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	02	通 期	2 単位	竹 田 和 子
[講義概要・学習目標] このクラスでは文法を学びます。教科書は、おおよそ①キーセンテンス、②文法説明、③会話文、④文法と対話の練習、⑤各課の最後の練習問題から構成されます。重要な文の規則を一つずつ練習しながら、日常生活に必要なドイツ語を一年間で習得することを目標にします。 授業では、口頭練習をよく行ないますので、練習へは積極的に参加してください。また予習、復習は不可欠です。外国語の習得には、反復練習と暗記という地道な努力が必要です。しかしその成果は決して小さいものではありません。授業を通じて新しい言葉、ドイツ語の基礎を体得してください。	[講義計画] <前期> 動詞の基本変化、名詞の性と冠詞、定冠詞類、名詞の格と複数形、不規則動詞、前置詞、時の表現、分離・非分離動詞、語法の助動詞、未来の助動詞、従属接続詞と副文、zu不定詞 <後期> 形容詞の語尾変化、序数、比較級と最上級、現在完了、再帰表現、過去形、動詞の三基本形、命令文、受け身の表現、分詞の用法、関係代名詞、関係副詞、不定代名詞、接続法			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。	[参考文献]			
[教科書] 著者 : 吉田光演、岩崎克己 書名 : ドイツ語でジャンプ! 発行所: 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	02	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
[講義概要・学習目標] ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	[講義計画] 1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a (初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献]			
[教科書] 大谷弘道 / CDつき新・叫びかけるドイツ語 三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	03 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	田 中 秀 穂
[講義概要・学習目標] 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行ないます。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項がゆっくりと学べるように編集されたテキストを用います。 ドイツ語には、主語によって動詞の語尾が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での統語的役割によって形を変える「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな規則があり、暗記すべき事柄も少なくはありません。しかし、積極的に授業に取り組み、文法を単なる知識として終わらせず、練習問題などによって確実に身につけてほしいと思います。 この一年間でドイツ文法の基本を一通り学ぶので、途中で投げ出さずに根気よく最後まで続けられれば、きっと、いろいろな規則も体系的に理解でき、ドイツ語がどんな言葉か概観できることでしょう。	[講義計画] 0. アルファベット、発音 9. 分離動詞 1. 動詞の現在人称変化 10. 語法の助動詞 2. 名詞の性と格変化 11. zu不定詞句 3. 語類 12. 動詞の3基本形、過去形 4. 前置詞の格支配 13. 完了時制 5. 名詞の複数形 14. 受動態 6. 冠詞類の格変化 15. 比較級 7. 形容詞の格変化 16. 関係文 8. 人称代名詞と再帰代名詞 17. 命令形 18. 接続法			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a (初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献]			
[教科書] 著 者： 在間進、納谷昌宏、清野智昭 書 名： 明るく楽しくドイツ語を！ [改訂版] 発行所： 三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	03	通 期	2 単位	竹 田 和 子
[講義概要・学習目標] <p>この授業では、読む、聞く、話す、書くという言葉の四つの能力のうち、特に聞く、話すという能力に重点を置き、それらを通じて読む、書くという能力も身につけることを目標にします。教科書は、アキラと友人たちの会話をもとにごく日常的な場面での基本的な会話表現を練習しながら、ドイツ語の基礎能力が身に付けられるように作られています。</p> <p>したがって授業への積極的参加と、予習、復習は不可欠です。外国語の習得には、反復練習と暗記という地道な努力が必要です。しかしその成果は決して小さくはありません。授業を通じて新しい言葉、ドイツ語の基礎を体得してください。</p>	[講義計画] <p><前期> 動詞・現在変化(1)、(2)、冠詞と名詞・格変化、時刻、前置詞、zu不定詞</p> <p><後期> 分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞、現在完了(1)、(2)、過去基本形、過去変化、副文、形容詞の格変化・比較、関係代名詞、接続法、受動態</p>			
[成績評価の方法] <p>前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>著者 : 近藤弘、小林Gerlinde、新倉真矢子、松尾博史 書名 : Dialogードイツ語へのキックオフ Ver.3 (CD付き) 発行所 : 都文堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	04	通 期	2 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] <p>外国語として英語を学び、おそらくは苦勞してきたみなさんにとって、新しい外国語を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。</p> <p>一つは、新しい外国語を通して、(つまりここではドイツ語を通して)今までとは違う世界をみて欲しいと思います。また、英語と同じ語族に属するドイツ語を学ぶことで、英語の構造を理解することがより深くなるでしょう。</p> <p>それから、何よりも、英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養っていただきたいと思っています。日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法を身につけて下さい。</p> <p>この講義では、ドイツ語の基礎的な文法を時間をかけて説明して行きます。ハードな水準は求めませんが、授業中に説明した文法事柄を復習し、宿題も必ずやってきて下さい。</p>	[講義計画] <p>本年度は、I aとI bのクラスが同一のテキストを用いて、リレー方式で進めて行く。授業内容や進度は、原則としてテキスト通り。</p>			
[成績評価の方法] <p>前期と後期の試験によります。成績はI a・I bを総合的に判断して決められます。同一テキストですので、試験は前・後期各1回ずつです。詳細はプリント「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」を参照して下さい。</p>	[参考文献] <p>独和辞典必携</p>			
[教科書] <p>在間進著、『四訂 現代ドイツ語文法 初級編』(三修社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	04		2 単位	<前 期> 坂 昌 樹
〔講義概要・学習目標〕 <p>はじめて学ぶドイツ語のもっとも大切な規則を、しっかりと身につけてもらいます。そこで教科書には、文法にかなう必要な事項と多くの練習問題が記載されているものを選び、授業の重点を反復や記憶に置くことにしました。わからないことがあったら、単語の意味から文の構造まで何でもかまいませんからきいてください。1年生のドイツ語で習うのは、基本中の基本です。英語でいうなら中学校で学ぶことなので、できるだけ授業中に覚えてしましましょう。それができないときは、復習をここがけてください。</p> <p>今年度の後期は、私が研修に当たっていますから、この授業の担当は山崎先生（このクラスとコンビネーションになっている Ia 04 の担当者）に代わります。そのこともあって教科書は Ia 04 と共通です。Ia 04（文法）とまったく一緒にならないために、ドイツの風土・文化の紹介や簡単な会話の練習をできるだけ試みるつもりです。1年生で頑張れば、2年のドイツ語はきっと楽しいものになるはずですよ。</p>	〔講義計画〕			
〔成績評価の方法〕 <p>前期と後期（山崎担当）の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、a を担当する教師と b を担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。</p>	〔参考文献〕 <p>独和辞典必携</p>			
〔教科書〕 <p>在問進、『現代ドイツ語文法 初級編』、三修社、（2000円）。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	04		2 単位	<後 期> 山 崎 充 彦
〔講義概要・学習目標〕 <p>外国語として英語を学び、おそらくは苦勞してきたみなさんにとって、新しい外国語を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。</p> <p>一つは、新しい外国語を通して、（つまりここではドイツ語を通して）今までとは違う世界をみて欲しいと思います。また、英語と同じ語族に属するドイツ語を学ぶことで、英語の構造を理解することがより深くなるでしょう。</p> <p>それから、何よりも、英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養っていただきたいと思っています。日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法を身につけて下さい。</p> <p>この講義では、ドイツ語の基礎的な文法を時間をかけて説明して行きます。ハードな水準は求めませんが、授業中に説明した文法事柄を復習し、宿題も必ずやってきて下さい。</p>	〔講義計画〕 <p>本年度は、I a と I b のクラスが同一のテキストを用いて、リレー方式で進めて行く。授業内容や進度は、原則としてテキスト通り。</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>前期と後期の試験によります。成績は I a ・ I b を総合的に判断して決められます。同一テキストですので、試験は前・後期各 1 回ずつです。詳細はプリント「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」を参照して下さい。</p>	〔参考文献〕 <p>独和辞典必携</p>			
〔教科書〕 <p>在問進著、『四訂 現代ドイツ語文法 初級編』（三修社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	05	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
【講義概要・学習目標】 ドイツ語学習の土台をつくるがこの授業の目標である。発音の練習をまずタププリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	【講義計画】 1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 早川 / 新・ドレーカー失踪事件 第三書房 Münzer				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	01	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
【講義概要・学習目標】 発音と文法の基礎を身につけながら、コミュニケーションにつながる基本的な表現を使った文章を覚えたり作ったりします。	【講義計画】 〈前期〉指定のテキストの第一章から第十章までですみます。 〈後期〉指定のテキストの第十一章から二十章までですみます。			
【成績評価の方法】 出席、平常点としレポートで言評価します。 年間4回以上休たし合格は必ずしもありません。 毎週小テストと小レポートを行ないます。	【参考文献】			
【教科書】 ロー・ヤマサキ・アニー:『Parole et syntaxe』(自家出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	0 1	通 期	2 単位	赤瀬雅子
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>フランス語は、あまたの外国語のなかで、発音がもっともむずかしい言語のひとつであり、また動詞の活用も多様である。しかし現代思想・現代文学の先端の書はフランス語で書かれたものが目立ち、また国際会議の公用語も英語およびフランス語である場合が多い。現代文化を考える上で必須の言語である。基本的な発音の法則、基本的な動詞の活用等が無理なく段階を経て理解されることを目指しつつ、フランス語の文化的背景をも考察する。</p> <p>読み、書き、話し、聴くことのすべてに一気に上達しようとする意欲はよいが、ただ焦るばかりで、すぐに上達しないと勉学を放棄してしまうこともよくある。それを防ぎ、着実に実力をつけるような勉学方法に中心をおいて学習を進める。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>先ず、発音の基礎をじっくりと学ぶ。これを身につけるにはかなりの時間が必要である。ついでフランス語ではことに重要な動詞の活用を、直説法を中心として学ぶ。命令法・分子法も習得し、易しい文章の読み書きの基本を体得する。ついで条件法・接続法を学ぶ。前置詞も理解できるようになっている時には学者や作家の書いた名文にも接する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>前期末試験と学年末試験の成績が、成績評価の上で重要な部分を占めることはいうまでもないが、出席率をよくすることは実力をつける上からも大切である。口頭試験・小テスト等の成績をも加えた総合評価がなされる。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>田島宏編『フランス語 話す』（白水社）</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>片山正樹・曾我祐典著『文法からのフランス語』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	0 2	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
フランス語 I b	0 2	通 期	2 単位	
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>やさしいテキストを音読し、文法・動詞活用・発音などをチェックし、より簡単な表現が出来るように口頭や筆記の練習をする。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>〈前期〉 指定のテキストの第一章から第十章までを修了する。</p> <p>〈後期〉 指定のテキストの第十一章から第二十章までを修了する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席率、平常点、レポートで評価します。年間4回以上休むと合格は出来ず、もしくはなりません。毎週小テストと小レポートを行います。</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>ロー・ロー・ヤマサキ:「Arrangements」(自家出版)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	03	通 期	2 単位	Cecile Morel
フランス語 I b	04	通 期	2 単位	
	05	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] フランス語会話	[講義計画] 聞き取りの練習を中心にする。 習った表現を実際に使ってみることにより 表現力を高めていく。			
[成績評価の方法] 出席・授業参加・態度・宿題 学期末試験	[参考文献]			
[教科書] DIALOGUES ティアログ 大阪日仏センター 第三書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	03	通 期	2 単位	一ノ瀬 真 美
	06	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、初級文法読本を用いて、簡単な文を読みながら一年間でフランス語の基礎をしっかりと身に付けることを目標としています。授業ではテキストを読んで理解するだけでなく、テープを活用して耳と口を使ってもフランス語になじみ、また、学んだ文法事項についてはかならず応用練習をしますので、実習のつもり積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書はかならず持参すること。	[講義計画] <前期> 最初の1～3回はウォーミング・アップとしてフランス語の発音についてのあらましと挨拶表現の練習。その後は次の文法事項を教科書に出てくる順で習得していきます。名詞の性と数。不定冠詞、部分冠詞、定冠詞。指示形容詞、所有形容詞。数量副詞。 être, avoir, -er動詞の直説法現在形の活用。疑問詞。 <後期> -ir動詞、不規則動詞の主なものの直説法現在形の活用。近接未来と近接過去。形容詞・副詞の比較級・最上級。代名詞。代名動詞。直説法複合過去形、半過去形、単純未来形。関係代名詞。条件法。接続法。現在分詞。			
[成績評価の方法] 前期試験と学年末試験で評価します。(学年末試験の方を重視。)	[参考文献]			
[教科書] 丸山圭三郎(著) 「丸山フランス語文法読本(新装版)」 (早美出版社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	04	通 期	2 単位	Olivier Birmann
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>フランス語を「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」ための基本的な文法を身につけることを目的としています。</p> <p>使用する教材（『Dialogues』）はコミュニケーション学習を重視するテキストです。各課の手順は次の通りです。いくつかの短い会話を聞くことから始まります。細部を聞き取ることを忘れて、まず話の大まかな内容を考えます。それから情報のポイントを、ゲーム感覚でチェックします。表現手段を学んで、次は、あなたの番です。同じようなシチュエーションを設定し、実際に使ってみましょう。</p> <p>コミュニケーションの中でこそ文法学習が活きてくるという考えです。</p>	<p><前期>自分について述べる／挨拶する 人を紹介する 買い物をする／評価する どこかへ行く／注文する 物や人を描写する／評価する等々</p> <p><後期>買い物をする／提案する／拒否する 自分について述べる／人を紹介する／評価する 提案する／承諾する／拒否する／執拗に求める／評価する 電話する／情報を求める等々</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。</p> <p>① 出席 ② 提出物 ③ 試験</p>	<p>『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990</p>			
[教科書]				
<p>『ディアローグ』 著者：オヴィエ・ビルマン、木内良行 他 第三書房、1997</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	05 06	通 期 通 期	2 単位 2 単位	本 多 雄 一 郎
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>本講義では、フランス語の初級文法を学んでいくと同時に、ビデオ教材を活用しながら口頭による会話表現も段階的に覚えて練習していきます。</p> <p>フランスはサッカーのワールドカップ開催によって脚光をあびていますが、そもそもフランス語自体は英語・スペイン語などと比べると国際的に重要な地位を占めており、ヨーロッパ統合が目前にせまる中でその国際語としての有用性を保持し続けるでしょう。国際語としてのフランス語が持つ論理性や明解な構造は、その基礎を学ぶほかではありえずと明らかにするはずですが、みなさんはおそらく同じスタート地点から出発して学ぶことになると思いますので新鮮な気持ちを取り組んで下さい。</p>	<p><前期> 4月中は主に発音練習を行ない、それと並行して自己紹介などの会話表現を覚え、フランス語の感覚を養っていく。 5月以降：フランス語の動詞活用を中心に文法の各項目の説明、そしてひそひそと会話表現の訓練を行なう。</p> <p><後期> 動詞の過去形・未来形など様々な構文を学んでいく。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>前・後期試験の成績及び平常点で総合評価する。</p>				
[教科書]				
<p>藤田裕二(他)『東京-1』、初飛行』駿河台出版社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	01 02	通 期 通 期	2 単位 2 単位	松 平 マリア
[講義概要・学習目標] スペイン語の紹介 基礎的な読解および書き方の教え	[講義計画] アルファベット、冠詞、性（男性名詞、女性名詞、中性名詞）形容詞、人称代名詞、反対語、同意語、疑問文、否定文、動詞、直接法現在文、数			
[成績評価の方法] 筆記試験	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a スペイン語 I b	03 04 05 02	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	GonzalesDario
[講義概要・学習目標] [学習目標] スペイン語に慣れ親しみ、基礎的な発音の習得や・初歩的な会話表現を身につける。 [講義概要] ラテン語から派生したロマンス諸国の一つのスペイン語は、世界の数多い国々で使用されている。日本語と母音が類似していることも有り、音声面からは大変親しみやすい言語であるが、黙読でなく恥ずかしがらずに声をしっかり出して読む・話すことを心掛けなければ、身につくことが半減してしまうでしょう。 本講義では、まず正しい発音で文章を読む事から始まり、辞書を活用することにより語彙力、読解力を養う。又、実践的に使える会話表現を覚える。 語学習熟には、口頭反復練習が大切であるが、会話表現を豊かにする為には西和和西1冊になった小辞典の携帯を必要とする。	[講義計画] 〈前期〉 1. スペイン語の発音と読み方 2. 挨拶をする、自己紹介、時間や曜日の尋ね方等の初歩的な会話表現 3. 辞書を活用しての簡単な文章の読解 〈後期〉 1. 動詞や疑問詞を使つての作文練習 2. 基本文型を応用した会話練習 3. ヒヤリングの力を身につける。			
[成績評価の方法] 定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。	[参考文献] 東谷頼人（著）『すぐに役立つ はじめてのスペイン語』（日本放送出版協会）			
[教科書] 最初の講義の時に指示をする。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I b	01 03 04 05	通 期 通 期 通 期 通 期	2単位 2単位 2単位 2単位	西 野 勝 子
[講義概要・学習目標] (学習目標) 基礎的なスペイン語の知識を習得する。 (講義概要) スペイン語は、スペイン、アフリカ、中南米諸国のスペイン語圏に限らず、アメリカに於いても必要な言語の一つとされている。最近、テレビ コマーシャルにスペイン語がよく聞かれるようになってきているのは、歯切れが良くリズムカルで親しみやすいからであろう。 本講義では、まず発音から始まり、繰返し読む事を通じスペイン語に慣れていく。又、基本的な文法事項と並行して、読解力、作文力、会話力、ヒヤリング等の基礎的な語学力を総合的に学習する。更に、視聴覚教材の活用により聞き取る力を高めると同時に、スペイン語圏の生活文化についても触れたいと考える。 学生諸君には、西和和西1冊になった小辞典の携帯を必要とする。 “語学とは、継続と繰り返しの道のりである”	[講義計画] 〈前期〉 1. スペイン語の概略について 2. アルファベットと発音 3. 簡単な文を繰り返し読む 4. 単語を覚える 〈後期〉 1. 辞書を活用しての読解 2. ヒヤリングの力を身につける 3. 文法事項を応用した作文作り 4. 基本文型を応用した会話練習			
[成績評価の方法] 定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。	[参考文献] 東谷頼人 (著) 『すぐに役立つ はじめてのスペイン語』 (日本放送出版協会)			
[教科書] 最初の講義の時に指示をする。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I b	01 04 02	通期 通期 通期	2単位 2単位 2単位	藤 澤 道 郎
[講義概要・学習目標] イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずには言葉は学べない。授業では実際に短文を覚えて実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので、授業の概要や学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。だからこういう文章を個々に書く必要がないので、担当者が誰かということによって内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決めるから、甘い辛いの差は出てこないようになっている。	[講義計画] 【前期】 自分のことを言う。 1. イタリア語の音とイントネーション、単数・複数概念を身につける。 2. 規則動詞・名詞・形容詞の用法の徹底。 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習。 【後期】 相手にたずねてみる。 1. 不規則動詞・補助動詞。 2. 再帰動詞・目的語人称代名詞の用法。 3. 一年間で過去時制 (近過去・半過去) までを学習する。			
[成績評価の方法] 平常点。テストは授業中に数回行うが、ペーパー・テストの点だけで評価を決めるわけではない。受講生各個の能力を総合的に判断して判定することになる。最終評価は担当者の協議によって決定する。	[参考文献] 参考文献と呼ぶべきものではないが、辞書は小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。			
[教科書] 武田好・横山千里著 Andiamo in Italia (アンデ・イ・モ・イン・イタリヤ) 南欧図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I b	0 1 0 3	通 期 通 期	2 単位 2 単位	武田 好
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずには言葉は学べない。授業では実際に短文を覚えて実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので、授業の概要や学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。だからこういう文章を個々に書く必要がないので、担当者が誰かということによって内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決めるから、甘い辛いの差は出てこないようになっている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】 自分のことを言う。 1. イタリア語の音とイントネーション、単数・複数の概念を身につける。 2. 規則動詞・名詞・形容詞の用法の徹底。 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習。</p> <p>【後期】 相手にたずねてみる。 1. 不規則動詞・補助動詞。 2. 再帰動詞・目的語人称代名詞の用法。 3. 一年間で過去時制（近過去・半過去）までを学習する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点。テストは授業中に数回行うが、ペーパー・テストの点だけで評価を決めるわけではない。受講生各々の能力を総合的に判断して判定することになる。最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考文献と呼ぶべきものではないが、辞書は小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武田好・横山千里著 Andiamo in Italia (アデーモ・イン・イタリア) 南欧図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a	0 2 0 3	通 期 通 期	2 単位 2 単位	和 栗 珠 里
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずには言葉は学べない。授業では実際に短文を覚えて実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので、授業の概要や学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。だからこういう文章を個々に書く必要がないので、担当者が誰かということによって内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決めるから、甘い辛いの差は出てこないようになっている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】 自分のことを言う。 1. イタリア語の音とイントネーション、単数・複数の概念を身につける。 2. 規則動詞・名詞・形容詞の用法の徹底。 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習。</p> <p>【後期】 相手にたずねてみる。 1. 不規則動詞・補助動詞。 2. 再帰動詞・目的語人称代名詞の用法。 3. 一年間で過去時制（近過去・半過去）までを学習する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点。テストは授業中に数回行うが、ペーパー・テストの点だけで評価を決めるわけではない。受講生各々の能力を総合的に判断して判定することになる。最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考文献と呼ぶべきものではないが、辞書は小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武田好・横山千里著 Andiamo in Italia (アデーモ・イン・イタリア) 南欧図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I b	0 4	通 期	2 単 位	噯 絵 里
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずには言葉は学べない。授業では実際に短文を覚えて実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので、授業の概要や学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。だからこういう文章を個々に書く必要がないので、担当者が誰かということによって内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決めるから、甘い辛いの差は出てこないようになっている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】 自分のことを言う。 1. イタリア語の音とイントネーション、単数・複数概念を身につける。 2. 規則動詞・名詞・形容詞の用法の徹底。 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習。</p> <p>【後期】 相手にたずねてみる。 1. 不規則動詞・補助動詞。 2. 再帰動詞・目的語人称代名詞の用法。 3. 一年間で過去時制（近過去・半過去）までを学習する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点。テストは授業中に数回行うが、ペーパー・テストの点だけで評価を決めるわけではない。受講生各個の能力を総合的に判断して判定することになる。最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考文献と呼ぶべきものではないが、辞書は小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武田好・横山千里著 Andiamo in Italia (アンデイアモインイタリア) 南欧図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I a		通 期	2 単 位	国 松 夏 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>おそらく多くの皆さんにとって未知のロシア文字、それもやはり「アルファベット」と言うのですが、その33文字(!)とそれらが表す音(独特のものがある)を練習して覚えることから始めます。 そして、初級の文法を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようになるのが目標ですが、それよりはむしろ耳と目をロシア語に慣らし、自分でも恥ずかしくなく積極的に発音することが肝心です。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>「ロシア語 I b」と共通の教科書を使い、「文字と発音」から始めて、この「ロシア語 I a」では、第1課から奇数課を学習します。全10課ですから、「I a」では、5課分の学習になります。しかし、内容は豊富ですから、頑張ってください。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を何よりも重視します。とにかく出てきて、ロシア語にふれること。折りにふれて小テストとも実施。その上で、前期末と学年末のテストで総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られています。 その他、「参考文献」は、随時授業中に紹介することになるでしょう。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>戸辺又方『1年生のロシア語』(白水社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I b		通 期	2 単位	杉 野 ゆ り
[講義概要・学習目標] ロシアは隣国でありながら、日本にとってはまだまだ可能性を秘めた未知の大国です。21世紀を背負って立つ皆さんがロシア語を勉強し続ければ、両国間の交流に新分野を開拓し、またその一翼を担うチャンスが、将来必ずや訪れるでしょう。未知の分野に挑むチャレンジ精神のある学生の参加を期待します。 ロシア語はやりがいと味わいのある言語です。既にみなさんが知っているラテン文字とはまた違ったロシア文字の形を楽しみながら、発音(1文字に1音が対応)を覚え、次第にロシア語基本文法の奥深く入っていきましょう。積極的に授業に参加して、五感をフルに使いながら、根気強く授業についてきてください。	[講義計画] ロシア語 I a と同じ教科書を使用します。I b は偶数課を勉強します。			
[成績評価の方法] 平常点(出席回数、小テストなど)と前後期の定期試験の点によって評価します。	[参考文献] 露和辞典必携			
[教科書] 戸辺又方 著「一年生のロシア語」(白水社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 1	通 期	2 単位	芦 田 茂 幸
中国語 I b	0 1	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] この地球上では5人に一人が中国語を話している。隣国であるということも含めると、我々日本人にとって中国語を学ぶ意義はとて大きいし、学習希望者も年々増加傾向にある。しかし困ったことは同じ漢字を使っているから、英語と比べてかなり学び易いだろうという錯覚から受講を希望する学生もかなりいるという現実である。中国語学習の過程での目標の第一は、日本人が漢字の読みを一つ一つ覚えたのと同じように、中国語独特のイントネーションとともに、漢字一字一字の固有の発音を会得することである。日本語の漢字の読みを覚えるのに少なくとも小学6年間を要したことを思い出してもらいたい。確かに補助的に使用するローマ字はあるが、それはあくまで補助であって、主ではない。「英語はだめだったが、中国語なら…」という考えは通用しないのである。 尚、テキストは a b 共通で、通年で使用する。	[講義計画] 授業の都合上、前期と後期に分ける。 <前期> 主として声調・発音に重点を置き、簡単な日常会話から始めるが、中国人の日常生活や風習にも言及し、中国語を親しみやすいものになりたい。 テキスト 1課～10課 <後期> 日常会話から中国各地探訪をテーマとした平易な文章語に進み、漢字を直に読めるようにし、中級への基礎固めを行いたい。 テキスト 11課～20課			
[成績評価の方法] 前期・後期とも2課毎に小テストをそれぞれ5回行い、その平均点に平常成績(暗誦、書き取り、及び出席状況)を加味して総合評価を行う。	[参考文献] 興水 優(著)「中国語早わかり」(三修社)			
[教科書] 榎本英雄・陳文正(共著)「中国語を学びましょう」(朝日出版社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	02 03	通 期 通 期	2 単位 2 単位	オ ウ 汪 暁 京
中国語 I b	02 03	通 期 通 期	2 単位 2 単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>はじめでの中国語、なんと言っても発音のマスターが一番重要なこと。拼音(ローマ字による発音表記)を右りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚える。その次、もっとも基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の転写、 扱、最初の中国語の勉強と共に、中国の文化、社会風俗、習慣などを紹介する。 テキストは『リポート中国語』を使いますが、「リポート」つまり繰り返し練習することによって、体が覚えるのが一番の勉強法だ。実際に話して、使って、そして覚えよ。</p>		<p><前期> 導入 発音段階 ① 拼音(ローマ字による発音表記)の習得 ② 四声(中国語のイントネーション) ③ 総合練習。 本文の勉強 第5課～第10課 コマースのペースで行う 1コマ目 文法とは何の使い方説明、 本文の朗読 2コマ目 本文の説明並びに朗読、翻訳、練習。</p> <p><後期> 前期に同じ 本文 第11課～第20課</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
定期試験、平常点、出席による総合評価。		香坂 順一・太田 辰夫(共著) 『現代中日辞典』(光生館)		
[教科書]				
相原 茂・玄 宜青(共著) 『リポート中国語』(朝日出版社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	04 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	カ 何 フ 涪 嘉
中国語 I b	04 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>中国語の発音(中国式ローマ字の発音と四声、および声調変化)を完全にマスターし、基本的な文法と初歩的な会話に身をつけることを目標とする。一年間の勉強で、簡単な文を書き、読めること、日常場面下の簡単な会話を聞き取れ、話せることを目指す。即ち、授業の合間に中国の文化と風俗習慣に触れ合い、中国人の考え方も前出らべこと思う。</p>		<p><前期> ① 入門講座 ② 発音(拼音)の習得 ③ 本文Aコース1～3課、 Bコース1～3課。 中国の発音に重点を置きながら、簡単な表現と基本文法も習得する。 口語文と文章文の違いも勉強する</p> <p><後期> 本文Aコース4～10課、 Bコース4～10課。 基本的な文の理解や日常場面下の会話能力の基礎を身に付けることを目標とする。</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
前後期試験のほか、小テスト、授業中の状況および出席も十分に考慮して総合評価する		『精選 日中・中日辞典』(東方書店)		
[教科書]				
阿辺 淳・三池 登之・森本 英倫子(共著)『2WAY 中国語』(東方書店)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	06 07	通 期 通 期	2 単位 2 単位	サ 左 コウ 虹
中国語 I b	06 07	通 期 通 期	2 単位 2 単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>中国語を修得するためには正しい発音をマスターすることと中国語の文型を把握することが最も重要である。かといって発音練習や複雑な文法や文型の学習ばかり続けたのでは学習者がついてこない。そこで一年間の学習で簡単な日常会話と発音の基礎と文法を有機的に結びつけ、会話の雰囲気を楽しみながら少しずつ中国語を身につけることを目標とする。また中国語の学習と共に、中国の文化、社会、風俗習慣を紹介する。</p>		<p>前期： 発音 1～7課までの予定。 ・拼音字母の読み方、書き方の習得に重点を置く。 基本的な文法や文型を学ぶ。</p> <p>後期： 8課～20課までの予定 ・前期で学んだ拼音字母を十分に活用し、基本的な文法や文型の理解を深め、簡単な会話でもやりがいの能力を養う</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席点を含む平常点と前、後期の定期試験、小テストなどによって評価する		<ul style="list-style-type: none"> ・竹島金吾・児野道子(著)『中国語 123』(白水社) ・日中友好協会『中国語へのちかみち』(朝日出版社) 		
[教科書]				
山下輝彦(著)『中国語でコミュニケーション ことばのひまわり易い会話へ』(金星堂) 単2,400				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	08 09	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ジ ョ 徐 コク 国 ギョク 玉
中国語 I b	08 09	通 期 通 期	2 単位 2 単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>1 年生のコミュニケーション中国語は、中国語をはじめ学習する学生が使えるために作られたものです。構成は次のとおりです。</p> <p>1. [発音] 2. [会話] ①「会話文例」日本人が中国に行き、出会った場面を想定しておき、初級レベルの最も基本的な表現を3コマのイラストで漢文で書き、②「ポイント」無理なく学習できる最小範囲の文法を整理します。③「トレーニング」会話で学んだ表現を使い、多くの練習問題を通して、口慣らしをし、会話の基礎を固めます。④「レクリエーション」耳の練習を重視し、再確認することによって、コミュニケーションの力が上がります。</p> <p>学習目標は、初歩的な中国語でコミュニケーションができるようになることです。</p>		<p><前期> 発音の基礎を学んだあと、最低必要の文法事項を学び、基本的な会話表現を学ぶ。</p> <p><後期> 読む、聞く、読む、書くの4技能の向上をはかる。</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
前・後期試験の成績と平常点を総合評価する。		<p>北京・商務印書館、小学館編『日中辞典』(小学館)</p> <p>荒川清秀(著)『中国語ステップバイステップ』(白水社)</p>		
[教科書]				
場本慶一監修 劉穎著 1 年生のコミュニケーション中国語。(白水社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a 中国語 I b	10 11 10 11	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	チン フク キ 陳 福 輝
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>基礎的な中国語の力を養うのが、1年間の目標である。入門の段階では発音練習を中心に、「拼音」（中国式ローマ字の発音）と「四声」（漢字の4つの声調）の修得を目指す。次に初歩的な文法を通して基本文型を学び、1年で発音とやさしい会話表現をマスターすることに重点をおく。間違いを恐れず、大胆に発音、発話することを望む。</p> <p>中国語に限らず、外国語の学習は「繰り返し聞いて話す」ことがとても重要だから、自宅でも何度もテープを聞いて練習すること。</p> <p>①耳と口と目を使って中国語に慣れる ②テキストから日常使えそうな会話表現をどんどん覚える ③ビデオを見ながら中国の生活・文化に触れる</p> <p>以上の3点が目標である。学生諸君の積極的な参加を期待する。</p>		<p>〔前期〕第1課～第12課</p> <p>〔後期〕オーラルテスト 第13課～第20課</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>小テスト（2課ごとに行う 計10回程度）及び平常点（書取、日頃の授業態度、積極性、宿題等提出物、出席）で総合評価する。</p>		<p>『プログレッシブ中国語辞典』 3500円（小学館） 『簡約現代中国語辞典』 3400円（光生館）</p> <p>他に、旅行携帯用として『精選日中・中日辞典』 1748円（東方書店）</p>		
[教科書]				
<p>相原 茂 他（著）『入門・北京カクログ』～中国文化・中国事情～ （朝日出版社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a 中国語 I b	12 12	通 期 通 期	2 単位 2 単位	リン コウサク 林 宏 作
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>中国語の語法と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟および基本文型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意しておきたい。</p>		<p>〔前期〕①現代中国語概説 ②漢語ローマ字 ③拼音と四声 ④教科書第1課から第10課までの講読と発音練習</p> <p>〔後期〕①教科書第11課から第20課までの講読と発音練習 ②発音テスト</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>前・後期の試験および発音テスト(後期実施)。</p>				
[教科書]				
<p>喬炳南（編）『実用中国語』（中国語文研究会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I a 朝鮮語 I b		通 期 通 期	2 単位 2 単位	チョン 田 ソンヒ 星 姫
[講義概要・学習目標] 本講義は、大学ではじめて朝鮮語を学ぶ人のための入門講座である。 このクラスでは、文字や簡単な会話、必要最小限の文法事項など、朝鮮語の基礎を学ぶ。	[講義計画] 1. 文字と発音 2. 基本的な単語と表現 3. 基本的な文法 4. 日常会話 5. 生活と文化の簡単な紹介			
[成績評価の方法] 試験、出席、課題への取り組みを総合的に評価する	[参考文献] 授業中、適宜紹介する			
[教科書] 高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語』白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I a		通 期	2 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標] 大学の講義をノートを取りながら聴き、意見を述べ、教科書や参考書を読み、 タームペーパーを書く。．．．外国語でこれらの作業を行うには高度な外国語の 力を必要とする。このクラスでは、大学の講義を受ける上で必要な日本語の読 解力に焦点を絞って訓練を行う。	[講義計画] <前期>内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。 <後期>内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 辞書を常時携帯すること。			
[教科書] 読解資料はこちらで用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I b		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>留学生の皆さんは、大学に入学するための日本語学習が目標であった時期を経て、今は日本語で新たな知識、情報を習得し、さらには自己の表現手段として柔軟に使いこなすことが求められる段階に入りました。留学生だけのクラスで、十分に配慮された言語学習カリキュラムに添った授業をしてくれる日本語の先生はもういません。大学での実際の授業で用いられる日本語は実に雑多で、戸惑うことも多いでしょう。でも、それを克服しなければ、他の学生と組みしていくことはできません。</p> <p>この授業では、大学での様々なコミュニケーションに必要な実践力を習得するために、主として「読む」、「書く」、に加えて「自分の意見を発表する」ことも学びます。具体的には、新聞記事や短い論文、テレビ番組等の映像を材料に、それを理解し、要約を文章にし、批判を加えた自分の意見を発表するという活動を中心に行います。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業の前半は、主として新聞記事を中心に「読んで理解する」ことを中心に行います。そして後半は、やや長めの文章を読み、その文章に関して出される設問に文章で答えたり、意見を口頭で発表します。時事的な問題については、映像資料も使う予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の授業で出される課題による評価を中心に行いますが、出席はもちろん重要な条件です。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教員が毎回準備しますので、特に指定しません。ただし、自分に一番使いやすい辞書は必ず持参すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 II a	0 1	通 期	2 単位	高 田 里 恵 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>大人になってから学んだ語学を「話せる語学」にするためには、書く練習が欠かせません。自分で書けた文章は、聞き取れる文章・話せる文章になっていくのです。しかし、書く練習には、地道な努力が必要です。文章を一つひとつ暗記していくような心構えで頑張らしましょう。</p> <p>授業はプリント(A4)で進めていきます。和独の辞書は必要ありませんが、独和の辞書と初級の時に使用した文法の教科書を必ずもってきてください。</p> <p>一年間、ともに学びましょう。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語、覚えていますか 2. sein と werden 3. 助動詞で微妙な気持ちを表現する 4. 接続法を駆使する <p>その他、一年間を通じて「数の表現」を学んでいきます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期と後期にテストをする。成績は、bのクラスの担当者と相談し、総合点で決定される。なお平常点も考慮する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は使わない。プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	01	通 期	2 単位	田 中 秀 穂
[講義概要・学習目標] 初級ドイツ語の授業で身につけた知識をもとに、さらに発展的な理解力を養うことを目標とする講義のクラスです。 ドイツでは1990年から3年がかりで8種類の新しいデザインの紙幣を発行しました。この授業では、その際、紙幣のデザインや特徴、肖像に用いられた人物の生い立ちや業績、歴史的背景などについて、ドイツ連邦銀行が作製した平明なドイツ語のパンフレットをテキストに編んだものを精読します。文化や歴史にも興味をもちながら、ドイツ語に慣れ親しんでいきましょう。 語学の学習には継続が大切ですから、授業には必ず予習の上で、休まずに積極的に参加して下さい。	[講義計画] 各課において、テープを聴き、発音・読解の演習を行なう。あわせて文法事項の習得および復習をし、また、語彙を豊かにすることに努める。			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a (初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献]			
[教科書] 編 者： 中野 京子 書 名： ドイツマルク物語 発行所： 同人社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱa	02	通 期	2 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 1 回生で学んだ文法事項を復習しながら、やさしい文章を読み解く力を養います。おぼろげになっている文法知識をさましながら、一步一步進めて行きます。初歩的なことがらでも、分からないことは必ず質問して下さい。 ドイツ語の文体は、最初とはつつきにくいでしょうが、非常に論理的な構造になっているので、パズルを解き明かすような気持ちで読んで行くと面白くなってくるはずです。 英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養って下さい。日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法身につけて欲しいと思います。	[講義計画] 本年度は、ⅡaとⅡbのクラスが同一のテキストを用いて、リレー方式で進めて行く。授業内容や進度は、原則としてテキスト通り。			
[成績評価の方法] 前期と後期の試験によります。成績はⅡa・Ⅱbを総合的に判断して決められます。同一テキストですので、試験は前・後期各1回ずつです。	[参考文献] 独和辞典必携			
[教科書] Iwamura, "Deutschland Land und Leute" 岩村著、『文法読本・異文化としてのドイツ』(白水社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	02		2 単位	<前期> 坂 昌 樹
[講義概要・学習目標] 外国語学習としては、1年生に習ったことの復習をこころがけます。そこでわからないことがあったら何でも質問してください。わからないことがあったり、あるいは1年生で習ったことを忘れてしまっても、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままほったらかしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。 今年度の後期は、私が研修に当たっていますから、この授業の担当は山崎先生（このクラスとコンビネーションになっているⅡa 02の担当者）に代わります。そのこともあって教科書はⅡa 02と共通です。Ⅱa 02（文法）とまったく一緒にならないために、テキストとは別のホットなドイツ情報も紹介してみるつもりです。可能ならばインターネットも利用したいと考えています。	[講義計画]			
[成績評価の方法] 前期と後期（山崎担当）の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、Ⅰa（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献] 独和辞典必携			
[教科書] 岩村偉史他、『文法読本 異文化としてのドイツ』、白水社（2200円）。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	02		2 単位	<後期> 山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 1回生で学んだ文法事項を復習しながら、やさしい文章を読み解く力を養います。おぼろげになっている文法知識をさましながら、は必ず質問して下さい。 ドイツ語の文体は、最初はとっつきにくいですが、非常に論理的な構造になっているので、パズルを解き明かすような気持ちで読んで行くと面白くなっていくはずで、英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養って下さい。日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法を身につけて欲しいと思います。	[講義計画] 本年度は、ⅡaとⅡbのクラスが同一のテキストを用いて、リレー方式で進めて行く。授業内容や進度は、原則としてテキスト通り。			
[成績評価の方法] 前期と後期の試験によります。成績はⅡa・Ⅱbを総合的に判断して決められます。同一テキストですので、試験は前・後期各1回ずつです。	[参考文献] 独和辞典必携			
[教科書] Iwamura, "Deutschland Land und Leute" 岩村著、『文法読本・異文化としてのドイツ』（白水社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	03	通 期	2 単位	竹 田 和 子
〔講義概要・学習目標〕 <p>このクラスでは、初級クラスで習った文法知識を生かして、ドイツ語作文に挑戦してみましよう。読む、聞く、話すと並んで書くこともとても重要な言葉の技能です。教科書は重要な文法事項を復習しながらドイツ語で表現する能力が得られるように作られています。また作った文をもとに簡単な会話練習も行なうつもりです。</p> <p>授業のために和独辞典を買う必要はありません。ただし、外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要です。予習、復習を欠かさず、授業には積極的に参加してください。</p>	〔講義計画〕 <p><前期> 規則動詞とsein、haben、冠詞・複数・人称代名詞・不規則動詞、冠詞(類)・前置詞・前置詞を伴う動詞・形容詞、助動詞・再帰動詞、分離動詞・命令形・非人称動詞</p> <p><後期> 過去形・完了形・zu不定詞、付加語的形容詞・形容詞の名詞化・比較・分詞・従属節、受動・指示代名詞、関係代名詞・関係副詞、接続法</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。</p>	〔参考文献〕			
〔教科書〕 <p>著者 : 小林俊明 書名 : はじめての独作文 発行所 : 同学社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ b	03	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
〔講義概要・学習目標〕 <p>とにかく復習から始めよう。一年次で学ぶ内容は、おそらく消化不良になっているであろうから、もう一度der、des、dem、denからしっかりと整理しなおすことを最初の目標にする。</p> <p>毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。</p>	〔講義計画〕			
〔成績評価の方法〕 <p>前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a (初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。</p>	〔参考文献〕			
〔教科書〕 <p>諏訪 / ドイツ語の探検 朝日出版 Schlechi</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	01	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
[講義概要・学習目標] Lecture et traduction mot à mot, diction, vérification des points de grammaire importants, vérification des conjugaisons, quiz du professeur et interview des étudiants. Mémorisation du texte.	[講義計画] <前期> 指定のテキストの第一章から第十一章までですみます。 <後期> 指定のテキストの第十一章から第二十章までですみます。			
[成績評価の方法] 出席平常点としレポートで評価します。 年間4回以上休みと合格はまがかりません。 毎週小テストとしレポートを行います。	[参考文献]			
[教科書] ロー・ヤマサキ・アニー:『Choses de la vie』(自家出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ b	01	通 期	2 単位	一ノ瀬 真 美
[講義概要・学習目標] すでにフランス語Ⅰでフランス語の初歩を学んだ学生を対象に、まとまった量のやさしい読みものを読みながら、フランス語になじみ、より深い読解力を養うことを目標とする授業です。訳読を中心としたものになりますが、必要に応じて、随時、文法事項のまとめやすすでに学んだ基礎事項の復習をおこないます。また、テキストを声に出して読むことで、フランス語の発音やリズムが身に付くでしょう。なお、辞書はかならず持参すること。	[講義計画] <前期> 49頁まで。 <後期> 49頁～91頁まで。			
[成績評価の方法] 前期試験と学年末試験によって評価します。	[参考文献]			
[教科書] Pierre LOUKI (著)、下川茂 (編) 「パパ熱演ず」 (駿河台出版社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱa	02	通 期	2 単位	OlivierBirman
フランス語Ⅱb	04	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] 実際に「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」作業を行い、前年度に学んだことを見直しながら知識を広め、理解を深めます。道具は使ってはじめて手になじみ、改善すべき点も明らかになります。フランス語の文法感覚も、フランス語をどんどん使うことによって、磨かれていくはず。 なお教科書と連動して、フランス語Ⅱbクラス用の聞きとり、作文、読書の練習のプリントを作ります。	[講義計画] <前期> 自分について述べる、人を紹介する、評価する、提案する、承諾する、拒否する、執拗に求める 電話をする、情報を求める、会う約束をする 等々 <後期> 過去の物語、出来事の展開を証 出来事の背景について説明する 事柄を確かでないこととして伝 事柄を確実なこととして伝える			
[成績評価の方法] 成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験	[参考文献] 参考文献 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990			
[教科書] 『ディアログ』 著者： オイヴィエ・ビルマン、木内良行 他 第三書房、1997				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱb	02	通 期	2 単位	Cecile Morel
	03	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] フランス語会話	[講義計画] 聞き取りの練習を中心にする。 習った表現を実際に使ってみることによって、表現力を高めよう。			
[成績評価の方法] 出席・授業参加・態度・宿題・学期末試験	[参考文献]			
[教科書] Dialogues ティアログ 大阪毎日センター 第三書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	03	通期	2単位	赤瀬雅子
<p>[講義概要・学習目標] 内容のあるやや複雑な会話、美しい発音、文学作品あるいは学術論文の一節を暗記することによって実力をつける等、目指す所は多い。大切なのは、フランス語を流れとして把握すること、フランス語の語られる、あるいはフランス語の書かれる場がいかなるものであるかを意識することである。言葉を流れとして捉えることができれば、書く練習にも無理なく入ることができるので、それをも目指したい。</p> <p>読み、書き、話し、聴くことは、いずれも重要であるが、限られた時間ではそれがなかなか並行して学べない。テキストは単に読むためのものではなく、テキストの中のひとつひとつの文を大切に、そこから靈感を得て、書いたり話したりする力をつけていただきたい。</p>		<p>[講義計画] 一年間のフランス語の学習で身につけたことを、自身でもう一度確認することができるようにする。単語の発音もちろん大切ではあるが、この段階ではフランス語を流れとして捉え、発音できるようにする。動詞の基本的なものを理解しているかどうかを、確かめながら、易しいが深い内容をもつ文章に接し読み、書き、話し、聴く力をつける。</p>		
<p>[成績評価の方法] 前期末試験と学年末試験の成績が、成績評価の上で重要な部分を占めることはいうまでもないが、出席率をよくすることは実力をつける上からも大切である。口頭試験・小テスト等の成績も加えた総合評価がなされる。</p>		<p>[参考文献] 中山真彦著『ボンジュール・パリ』（白水社）</p>		
<p>[教科書] 朝倉季雄著『ジュム』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	04	通期	2単位	本多雄一郎
<p>[講義概要・学習目標] 本講義では、フランス語の初級文法を確保したのち、読解力を養成するのが目標である。そのため、テキストは初級から中級への橋わたしとなるものを用いながら、文法の諸項目を復習していくことから始めるが、途中からはフランスの文化や社会に関するテキストを読むことでフランスとフランス語に關係する知識を深めていきたい。 そして授業中の作業のために必ず辞書を持参すること。</p>		<p>[講義計画] 前期は教科書を通して初級文法の復習や、初級以降の文法的な話を進めていく。後期は教科書を読むのと並行して、エッセイ雑誌・新聞などを適時配布して様々な文章を読んでいく。</p>		
<p>[成績評価の方法] 前、後期試験の成績及び平常点で総合評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書] 窪川英水編『渚のプチ・ニコラ』 芸林書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ a	01	通 期	2 単位	松 平 マリア
【講義概要・学習目標】 スペイン語の紹介 基礎的な読解および書き方の教え	【講義計画】 アルファベット、冠詞、性（男性名詞、女性名詞、中性名詞）形容詞、人称代名詞、反対語、同意語、疑問文、否定文、動詞、直接法現在文、数			
【成績評価の方法】 筆記試験	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ a	03	通 期	2 単位	西 野 勝 子
スペイン語Ⅱ b	01	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 <small>【学習目標】</small> 基礎的な知識を応用して、実践的に使えるスペイン語を目指す。 <small>【講義概要】</small> 英語に次いで世界の数多い国々で使用されているスペイン語は近年世界経済の動向・国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、まずコミュニケーションの出来るスペイン語を目指し講義を進める。 本講義では、視聴覚教材を活用することにより、スペイン語の全体的な流れを理解すると同時にヒヤリングの力をつける。又、旅行した時に直面する事柄を考えて学習していく。 学生諸君には、常時、西和和西1冊になった小辞典の携帯を必要とする。語学マスターの鍵は、授業に対する積極的な参加・恥を捨てます人前で話す、根気強く口頭反復練習をする等の各自の努力によると考える。	【講義計画】 〈前期〉1. 空港にて 2. タクシー乗り場 3. ホテルのフロント 4. 銀行での両替 5. 聖家族教会 〈後期〉1. 交通機関（地下鉄、バス） 2. 試着と買物 3. レストランでの注文 4. 郵便物の発送 5. 薬局、病院にて			
【成績評価の方法】 定期試験と出席状況との総合評価とする。	【参考文献】 東谷穎人（著）『すぐに役立つ はじめてのスペイン語』（日本放送出版協会） 宮城 昇（編）『スペイン語 ミニ辞典』（白水社）			
【教科書】 辞書の携帯を必要とする。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ a	02	通 期	2 単位	GonzalesDario
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>[学習目標] スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばし、コミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。</p> <p>[講義概要] 本講義では、前年次に継続し基本的な知識を習得しながら、読解力・会話力を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から西和和西1冊になった小辞典の携帯が必要である。又人に聞き取れる声で話すことは会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。</p> <p>国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉 スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。訪問先での応対、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応（誕生日・クリスマス）</p> <p>〈後期〉 音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>東谷頼人（著）「すぐに役立つ はじめてのスペイン語」（日本放送出版協会） 宮城 昇（編）「スペイン語、ミニ辞典」（白水社） ヘレン・ディヴィーズ（著）『絵で見る辞典スペイン語入門』（洋泉出版）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>辞書の携帯を必要とする。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱb	02 03	通 期 通 期	2 単位 2 単位	新 田 増
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>スペイン語Ⅰでの既習の文法事項を踏まえ、初級文法を一通りすませ、より高度な文章の読解・作文力を養う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>当初の2・3回は震度調整を兼ねて既習の文法事項の復習を組み入れながら導入を図り、レベル指定教材（下記）にそって、前期では第12課より第17課あたりまでとし、後期では第22課までを終了の予定である。</p> <p>基本文法の復習を行いながら、より複雑な未習の文法事項を見ていくが、特に動詞の活用と、法時制の用例に対する正確な理解と運用能力の強化を目指して、できるだけ多くの訳読・作文練習を行う。</p> <p>予習・復習は不可欠であり、授業への積極的な参加・発表が望まれる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常試験（小テスト・口頭試問・レポート等を含む）</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『Esbozo de una nueva gramática de la lengua española』Real Academia Española著（Espasa-Calpe, S. A.） 『Gramática esencial del español』Manuel Seco著（Espasa-Calpe, S. A.） その他授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岡田辰雄・ホセ・マタ『現代スペイン語教本Ⅱ』（大学書林）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱa	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	武田 好
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力のいっそうの充実を図り、表現力を高める。言語学習で重要なのは、「誰がどの場面で何のためにその言葉を用いるのか」を体感することであるから、学生どうしの意見交換や課題発表の場が増えることになるが、イタリア人講師に直接接することにより、より現実的な体験が得られるだろう。イタリアの大学の外国人向けのイタリア語講座中級レベルに入学可能な実力をつけることが目標である。授業の方針は、担当者双方の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので、授業の学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>【前期】 イタリア語の構造のまとめ。 1. Iの総復習と実践練習。 2. 未来形・比較級・関係代名詞の用法。 3. 過去時制のまとめ。</p> <p>【後期】 実践力をつける。 1. 非人称のsiと命令法の用法。 2. 条件法と接続法の理解。 3. 実践的コミュニケーションの練習と手紙作文・講読の練習。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点。テストは授業中に数回行うが、ペーパー・テストの点だけで評価を決めるわけではない。受講生各々の能力を総合的に判断して判定することになる。最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>参考文献と呼ぶべきものではないが、辞書は小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>武田好・横山千里著 Andiamo in Italia (77デ'イ7-モ'イ7-イ777) 南欧図書</p> <p>他、順次プリントして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱb	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	パオラ・ラヴァッレ
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力のいっそうの充実を図り、表現力を高める。言語学習で重要なのは、「誰がどの場面で何のためにその言葉を用いるのか」を体感することであるから、学生どうしの意見交換や課題発表の場が増えることになるが、イタリア人講師に直接接することにより、より現実的な体験が得られるだろう。イタリアの大学の外国人向けのイタリア語講座中級レベルに入学可能な実力をつけることが目標である。授業の方針は、担当者双方の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので、授業の学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>【前期】 イタリア語の構造のまとめ。 1. Iの総復習と実践練習。 2. 未来形・比較級・関係代名詞の用法。 3. 過去時制のまとめ。</p> <p>【後期】 実践力をつける。 1. 非人称のsiと命令法の用法。 2. 条件法と接続法の理解。 3. 実践的コミュニケーションの練習と手紙作文・講読の練習。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点。テストは授業中に数回行うが、ペーパー・テストの点だけで評価を決めるわけではない。受講生各々の能力を総合的に判断して判定することになる。最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>参考文献と呼ぶべきものではないが、辞書は小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>武田好・横山千里著 Andiamo in Italia (77デ'イ7-モ'イ7-イ777) 南欧図書</p> <p>他、順次プリントして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱ a		通 期	2 単位	国 松 夏 紀
[講義概要・学習目標] 「ロシア語Ⅰa・b」で、文字と発音を含めて、一通り初級の文法を学んだ諸君を対象とし、いろいろなロシア語の文章を読んでいます。もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいないこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、テープなどで、音を聞き、自分でも声を出して繰り返し発音して下さい。 地道に努力を重ねると、思わぬロシア語の豊かな世界が開けることでしょう。	[講義計画] 教科書に従って、読んでいきます。しかし、教科書は全25課あり、とても全部は読み切れないと思います。とりあえず、半分くらい読むのを目標とし、最初は丁寧に、一語一語確認しながら読みます。調子が出てきたら、単語にこだわらず、どんどん文脈を追い、半分といわず、全部でも読み上げましょう。			
[成績評価の方法] 必ず予習をして、出席して下さい。やむを得ず予習が間に合わなくても、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、前期末・学年末の試験により、総合的に評価します。	[参考文献] もう辞書は持っていると思いますが、最初の時間に改めていろいろ案内します。また、ロシア語から広くロシア関係の話題を随時提供すると共に、「参考文献」も紹介するつもりです。			
[教科書] 和久利哲一著『入門ロシア語読本』（白水社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱ b		通 期	2 単位	杉 野 ゆ り
[講義概要・学習目標] まず、1年生で使用した教科書の続きを使って基本文法を完成し、購読力を養います。同時に作文の教科書をも使用しながら、自ら文を組み立てる力も付けます。購読と作文は、ロシア語の真の実力を養うための強力な推進役となってくれるはず。辞書をこまめに引いて予習を怠らないこと。授業には積極的に参加すること。そうすれば、1年間の勉強の後には、ロシア語があなたの大事な友人となっているでしょう。	[講義計画] 2冊の教科書を交互に使用し対講。購読と作文を勉強する。			
[成績評価の方法] 平常点(出席回数、小テストなど)と前後期の定期試験の点によって評価します。	[参考文献] 露和辞典必携			
[教科書] 佐藤 純一著「ロシア語初級&クラス」(1年生で購入済) 米川 哲史編「ロシア語作文の基礎」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a	01	通 期	2 単位	芦 田 茂 幸
	02	通 期	2 単位	
中国語Ⅱ b	01	通 期	2 単位	
	02	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>中国語Ⅰで会話文や平易な文章を通じて基礎的な修得を終えた後、更に一歩進めて、中国人の日常生活に関わる文章を対象にして、読解力を高め、朗読中心の反復練習を行うことによって、言葉のスピードアップを心掛け、聞き取りの力をも養い、将来活用出来るまでにもってゆきたい。またテキストを通じて中国及び中国人に親しみを覚えてくれれば幸甚である。</p> <p>尚、テキストはクラス01、02いずれも同一テキストをa、b共通で使用する。既に中国語Ⅱを履修した学生も再度随意科目として履修出来るよう、テキストは毎年変えているので積極的に参加してほしい。</p> <p>辞書は必ず購入しておくこと</p>	<p>〈前期〉声調・発音に留意して、平均2課に5講時を当て、2課毎に小テストを行い、修得を確実にものにしたい。 テキスト 1課～10課</p> <p>〈後期〉文法に重点を置きながら朗読中心の反復練習を行い、平均2課に5講時を当て、2課毎に小テストを行い、一層修得を確実にものにしたい。 テキスト 11課～20課</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>前期・後期とも2課毎に小テストを5回行い、その平均点に平常成績(朗読・作文・暗誦・書き取り、及び出席状況)を加味して総合評価を行う。</p>	<p>香坂順一(編)『簡約現代中国語辞典』(光生館)</p>			
[教科書]				
<p>荒屋 勸・徐 迎新(共著)『中国人「暮らし」のスケッチ』 (朝日出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a	03	通 期	2 単位	チ ン フク キ 陳 福 輝
中国語Ⅱ b	03	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>このクラスでは、初級クラスで習った文法、会話表現を生かして、少しレベルを上げた会話や読み物にチャレンジする。まず、一年次の復習から始め、話すことに重点をおく。適宜やさしい読み物にも挑戦する。</p> <p>「繰り返し聞いて話す」ことがとても重要なので、自宅でも何度か付属のCDを聞いて練習すること。</p> <p>①基礎知識をマスターし、コミュニケーションできる中国語を目指す ②日常に必要な会話表現、語彙をどんどん覚える ③新しい中国の生活・文化に触れる ④読む・書く・聞く・話す力を総合的に伸ばす 希望者には中国語検定(11月)受験のための指導を行う</p> <p>以上の4点が一年間の目標である。学生諸君の積極的な参加を期待する。</p>	<p>〈前期〉第1課～第10課 プリント教材</p> <p>〈後期〉第11課～第20課 プリント教材</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>小テスト(2課ごとに行う 計10回程度)及び平常点(書取、日頃の授業態度、積極性、宿題等提出物、出席)で総合評価する。</p>	<p>『プログレッシブ中国語辞典』 3500円 (小学館) 『簡約現代中国語辞典』 3400円 (光生館)</p> <p>他に、旅行携帯用として『精選日中・中日辞典』 1748円 (東方書店)</p>			
[教科書]				
<p>守屋宏則(著)『中国 ひとくじことば』(朝日出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a	04	通 期	2 単位	リン 林 コウサク 宏 作
中国語Ⅱ b	04	通 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕 中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙をふやし、読解カッスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。なお作文も同時に行うので「毎回必ず」辞書を携帯すること（香坂順一編著『簡約現代中国語辞典』〔光生館発行〕をすすめる）。出席および宿題の提出をもって平常点とする。		〔講義計画〕 〈前期〉教科書第1課～第8課の講読および作文 〈後期〉教科書第9課～第15課の講読および作文		
〔成績評価の方法〕 出席率と宿題の提出と前・後期の試験による。		〔参考文献〕 香坂順一（編著）『簡約現代中国語辞典』（光生館）		
〔教科書〕 楊 為夫（著）『中国之行』（光生館）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語Ⅱ a		通 期	2 単位	徳成外志子
朝鮮語Ⅱ b		通 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕 朝鮮語初級修了者を対象に、テキストに沿って、より上の段階の文法、文型の学習を系統的に進める。併せて、簡単な朝鮮語の読み物、民話、童話から、韓国の歌、新聞雑誌などまで多様な文章を教材に取り上げ、読書能力を高めると同時に、韓国の生活や風俗、文化の一端が理解できるようにしたい。 また、朝鮮語で自己紹介をしたり簡単な日記や手紙を書いたりして、学んだ語彙や文法の範囲で自由な作文を行い、朝鮮語で考え、朝鮮語で自己の意思を表現する基礎的練習を行う。 ビデオやテープを使って聞き取り能力を養い、授業はできるだけ朝鮮語で対話を行いながら進め、簡単な日常会話ができるようにもしたい。授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、朝鮮民主主義人民共和国で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきたい。		〔講義計画〕 前期：1. テキストの1課本文から、初級の発音、文法の復習をかねて行い、15課当たりまで進む。 2. 簡単な副教材プリントや歌、ビデオなど。 3. 初歩的な作文と会話。 後期：1. テキスト16課から最後（30課）まで。 2. やや高度な内容の副教材プリントや歌、ビデオなど。 3. 作文や実用会話。		
〔成績評価の方法〕 前・後期末に行うテストの比重が最も高いが、それに出席や普段の課題への取り組みを総合的に評価する。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切である。		〔参考文献〕		
〔教科書〕 李応寿著『やさしい韓国語講座』（語研）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅱ a		通 期	2 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標] 大学の講義をノートを取りながら聴き、意見を述べ、教科書や参考書を読み、タムペーパーを書く．．． 外国語でこれらの作業を行うには高度な外国語の力を必要とする。このクラスでは、大学の講義を受ける上で必要な日本語の読解力に焦点を絞って訓練を行う。	[講義計画] <前期>内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。 <後期>内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 辞書を常時携帯すること。			
[教科書] 読解資料はこちらで用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅱ b		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標] 大学に入学して一年が経過し、日本語によりすべてのコミュニケーションを行うことの難しさを充分自覚したことと思います。日本語の力を上達させるだけでは解決できない問題もありますが、やはり柔軟な実践力を養うことは続けていかなければなりません。 この授業では、大学生に求められる日本語力をさらに強化するための様々な活動を行います。新聞の論説記事や専門性のある論文等を批判的に読み、意見を文章にまとめ、発表するという活動を中心として行いますが、日本人の学生との共同プロジェクトも一年かけて行う予定です。自分達にとって最も関心のあるテーマを設定し、共同で作業することで、日本人学生の勉強のしかたを知ったり、互いの意見を交換することも可能です。そして最後には成果を発表して、他の学生から評価してもらう予定です。	[講義計画] 授業は、年間を通じて論文等を読み、理解し、要約を文章にすることを中心に行います。さらには、同時進行で日本人学生との共同プロジェクトを進め、適宜、その進行状況の報告を授業で行います。			
[成績評価の方法] 毎回の授業で出される課題に加えて、共同プロジェクトの成果を評価の主たる対象にします。出席はもちろん最重要です。	[参考文献]			
[教科書] 教員が準備しますので、特に指定はしません。ただし、自分に一番使いやすい辞書は必ず持参すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育原理 I	01	前 期	2単位	竹 中 暉 雄
	02	前 期	2単位	
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の本質及び目的に関する事項」を内容とする。</p> <p>これまで学校教育だけで12年間以上も教育を受けてきながら、いざ「教育とは何か」と改まって問われると極めて答えにくいものである。教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。</p> <p>その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育目的の問題である。教育の目的は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。</p> <p>教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。講義内容および各自が独自に仕入れた知識を比較検討して、自分自身の教育論を持つようにしてほしい。質問・意見は質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) で受けつけます。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>教育の本質</p> <p>1 教育の定義</p> <p>2 人間の教育必要性和教育可能性</p> <p>3 我・汝関係と教育関係</p> <p>4 教師と教育的タクト</p> <p>人間の脳と教育</p> <p>5 人間の脳の特異性</p> <p>6 遺伝と環境の問題</p> <p>7 生涯学習の必要性和可能性</p> <p>教育理念・目的の思想史</p> <p>8 近代教育論の始まり</p> <p>9 「合自然」の教育論</p> <p>10 「反合自然」の教育論</p> <p>11 児童中心主義の意義</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>論述試験による。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>テキストに記載されている引用文献・参考文献</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永（共著）『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版1997年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育原理 II	01	後 期	2単位	竹 中 暉 雄
	02	後 期	2単位	
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育に関する社会的・制度的な問題」を内容とする。</p> <p>もともと教育とは個人的で私的な営みであるが、近代公教育は法令に基づき国家的制度として行なわれる。多額の公費を使用して子どもたちの学習権を平等に保障し、そのことによって社会有用の人才をつくらうとするのである。しかしその結果、個人の自由や個性が無視されてしまうことも起こってしまう。登校拒否という現象は、公教育制度について根本的な反省を迫るものである。しかしだからといって、学校制度というものを完全に否定することが正しいとも思えない。なぜ現在の学校教育は拒否されるのか、まずそこに内包される問題点について認識したうえでないと解決策は見つけられないであろう。</p> <p>学校の教師も法令によって制度的に守られている反面、さまざまな制約をうける存在でもある。学校の教師になるということはどういうことなのか、いろいろ具体的な例を出しながら考えていきたい。</p> <p>また教育の病理現象として典型的な「いじめ」の問題についても、教師との関わりという視点から考察し、解決策を探ることにする。いずれも現実的な問題はばかりなので、質問・意見票をどんどん提出してほしい。E-mailも受けつけています (takenaka@andrew.ac.jp)。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>法令の中の教育</p> <p>1 義務教育と登校拒否</p> <p>2 家庭での就学</p> <p>3 進級・卒業の問題</p> <p>4 学習指導要録の問題</p> <p>5 指導要録の問題</p> <p>「いじめ」問題</p> <p>6 いじめの定義と構造</p> <p>7 裁判例と克服策</p> <p>学校教師という職業</p> <p>8 教職の性質</p> <p>9 研修義務</p> <p>10 経済的待遇</p> <p>11 部活動指導</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>論述試験による</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>テキストに記載されている引用文献・参考文献</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永（共著）『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版1997年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育心理学	01 02	前 期 前 期	2単位 2単位	冷 水 啓 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>子どもたちは、家庭、学校、地域社会における日常の生活の中で、ものや他者とのかわりあいを通して実にさまざまな知識や技能を習得し、発達していく。どのような子どもでも、その子なりに、自己の確立をめざして主体的・能動的に学び続けていこうとする意欲や能力をもっている。周囲の大人たちは、そのような子どもも本来の姿に気づき、それを理解し、それぞれの個性に即した教育的働きかけを行わなければならない。</p> <p>本講では、このような教育理念に基づき、乳幼児期・児童期・青年期の「発達と学習」に関する教育心理学的諸問題について検討する。</p> <p>講義内容に関連する資料や補助教材は、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。必要に応じて、簡単な心理学的テスト、実験、調査などの実習を導入する。</p> <p>履修生の主体的・積極的な受講を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. はじめに——教育心理学とは何か</p> <p>II. 「発達」とは何か——誕生の前から始まり生涯を閉じるまでの過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達のすじみち <ol style="list-style-type: none"> ①乳幼児期 ②児童期 ③青年期 2. 発達の原理 <ol style="list-style-type: none"> ①遺伝と環境 ②成熟と経験 ③発達の理論 3. 教育的環境と発達：発達に関する諸問題 <p>III. 「学習」とは何か——学習の過程と役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の理論 2. 学習と認知 <p>IV. 全体のまとめ</p> <p>注) この計画内容については講義の進捗状況によって変更することがある。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。学期末に試験を実施する。その他必要に応じて、簡単な調査などの実習への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤永 保 (著) 『幼児教育を考える』 (岩波新書)</p> <p>波多野諠余夫・稲垣佳世子 (共著)</p> <p>『人はいかに学ぶか——日常的認知の世界』 (中公新書)</p> <p>無藤 隆・藤崎真知代・市川伸一 (共著) 『教育心理学』 (有斐閣Sシリーズ)</p> <p>高橋恵子・波多野諠余夫 (共著) 『生涯発達の心理学』 (岩波新書)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岩田純一・梅本亮夫 (編) 『教育心理学を学ぶ人のために』 (世界思想社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育方法学	01 02	後 期 後 期	2単位 2単位	冷 水 啓 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>同じ問題の解き方を覚えるにしても、なるほどそうなのかと、そのような手順・方法をとる意味を納得したうえで理解し、覚えるとき、ああしてこうしたら解けると、ただその手順だけを覚えるときとは、問題そのものに対する理解の水準が異なってくる。子どもにとってわかりやすい、効果的な学習とは前者の場合であろう。</p> <p>本講では、このように子どもの理解を促進する教授・学習方法とはどのようなものを具体的に検討する。さらに、それぞれの子どもの年齢段階や個性に即した学習過程を支援するためのさまざまな教育メディア (とくにコンピュータ) 利用についても考えたい。</p> <p>講義内容に関連する資料や補助教材は、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。必要に応じて簡単な心理学的テスト、実験、調査などの実習を導入する。</p> <p>履修生の主体的・積極的な受講を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. はじめに——教育方法学で何を学ぶか</p> <p>II. 教授・学習の理論と方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校での学習と日常生活での学習 2. 教授・学習の理論と方法 3. 学習を支える人格と意欲 <ol style="list-style-type: none"> ①内発的動機づけと自己学習能力 ②知的好奇心と学習 4. 子どもの理解を促す学習 <ol style="list-style-type: none"> ①スキーマ理論の導入 ②心的イメージの利用 <p>III. 教育へのコンピュータ利用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CAI, CMI 2. インターネットの利用 <p>IV. 教育測定と評価</p> <p>V. 全体のまとめ</p> <p>注) この計画内容については講義の進捗状況によって変更することがある。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。前期末と後期末に試験を実施する。その他必要に応じて、簡単な実験・調査などの実習への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>赤堀侃司 (著) 『学校教育とコンピュータ』 (NHKブックス)</p> <p>藤永 保 (著) 『幼児教育を考える』 (岩波新書)</p> <p>波多野諠余夫・稲垣佳世子 (共著)</p> <p>『人はいかに学ぶか——日常的認知の世界』 (中公新書)</p> <p>無藤 隆・藤崎真知代・市川伸一 (共著) 『教育心理学』 (有斐閣Sシリーズ)</p> <p>高橋恵子・波多野諠余夫 (共著) 『生涯発達の心理学』 (岩波新書)</p> <p>吉田 甫・栗山和広 (編著) 『教室でどう教えるかどう学ぶか』 (北大路書房)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岩田純一・梅本亮夫 (編) 『教育心理学を学ぶ人のために』 (世界思想社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科教育法	01	前期	2単位	飯島敏文
[講義概要・学習目標] 昭和22年に、日本に社会科という総合教科が登場して、ほぼ半世紀を経た。その成立後、社会科は常に論議的であった。平成元年版の『学習指導要領』において社会科の教科枠組みの再編が行われたのはその現れの一つと言えよう。 受講生の諸君は、小学校から高校にかけて社会科の授業を受けてきたわけであるが、「教科」としての社会科の特質に思いを寄せることは多くなかったと思われる。 本講義では、社会科の前身を踏まえた上で、成立期の社会科の特徴を考察し、さらに、その後の歴史的経緯を顧みることとする。そのことを通して、現代において、総合教科としての社会科がいかなる意義を持っているのか、その実践上の課題はどこに存するのか等の諸点についての理解を深める。 社会科に関する理解が「机上の空論」に陥らないように、講義においては、可能な限り、実践に即した具体的解説を試みることをする。	[講義計画] 〈前期〉①社会科の前身 ②社会科の成立 ③成立期社会科の特徴 ④社会科学学習指導要領の変遷 ⑤社会科の現代的意義 ⑥問題解決学習の社会科 ⑦社会科の授業分析			
[成績評価の方法] 出席、授業内小レポート、期末試験等の観点を総合的に評価して行う。	[参考文献] 講義中にその都度紹介する。			
[教科書] 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科教育法	02	前期	2単位	林 陸雄
[講義概要・学習目標] 社会科とは、暗記科目あるいは余談の多いおもしろい科目と見られがちである。しかし、本来の目標は中学生の社会認識能力を育成することにある。中学生も、一人の生活者として現実社会に生きている。その彼らがとらえている社会像と真っ向から切り結び合える授業を、どのように組み立て実践するのか。 社会科教育の目標と内容、授業実践に必要な基礎・基本について体験的に学習する。限られた授業回数でこれらの課題を遂行するのは困難である。全出席を守り、遅刻早退のないようにすること。	[講義計画] 1. 社会科教育の意義 2. 社会科の目標と教科構造 3. 社会科の教育課程 4. 社会科の指導計画 5. 学習指導と能力育成 6. 学習指導の形態 7. 学習資料の活用 8. 学習指導の評価 9. 教材研究と実地授業 10. 地理的内容の授業 11. 歴史的内容の授業 12. 公民的内容の授業			
[成績評価の方法] 出席回数、授業内の小レポート、期末考査の結果を総合的に評価して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。	[参考文献] 授業の中で適宜紹介する。			
[教科書] 森 秀夫 著 『中等 社会諸教科教育法』 学芸図書株式会社刊				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公民科教育法	01	後 期	2 単位	飯 島 敏 文
〔講義概要・学習目標〕 昭和22年に、日本に社会科という総合教科が登場して、ほぼ半世紀を経た後、平成元年版の「学習指導要領」において高校の「社会科」は「地理歴史科」と「公民科」に分かれた。 本講義では、「社会科」が「地理歴史科」と「公民科」に分けられるに至る経緯を明らかにした上で、「公民科」を「公民的資質の育成」にもっとも直接的に関わる教科として位置づけ、その特質と実践的課題を考察することを試みる。	〔講義計画〕 〈後期〉①公民教育とは何か ②公民教育の歴史 ③公民科成立の経緯 ④公民科の特徴 ⑤公民科の目標 ⑥公民的資質の育成 ⑦公民科の授業実践			
〔成績評価の方法〕 出席、授業内小レポート、期末試験等の観点を総合的に評価して行う。	〔参考文献〕 講義中にその都度紹介する。			
〔教科書〕 『高等学校 学習指導要領』 『学習指導要領解説 公民科編』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公民科教育法	02	後期	2 単位	林 陸雄
〔講義概要・学習目標〕 高等学校公民科について、年間計画の建て方、学習指導案の作成方法、授業実践の基礎・基本について体験的に学習する。限られた授業回数なので集約的に授業を展開する。全出席を守り、遅刻早退をしないこと。前期の社会科教育法とは相互補完的なので、必ず履修しておくこと。	〔講義計画〕 1. 公民科の目標と組織 2. 現代社会の教育課程 3. 倫理の教育課程 4. 政治・経済の教育課程 5. 倫理の授業例 6. 現代社会の授業例 7. マイクロ・ティーチング① 8. マイクロ・ティーチング② 9. マイクロ・ティーチング③ 10. マイクロ・ティーチング④ 11. マイクロ・ティーチング⑤ 12. マイクロ・ティーチング⑥ 13. 教育実習とその評価			
〔成績評価の方法〕 出席回数、授業内での小レポート、期末考査の結果を操業して評価を行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。	〔参考文献〕 授業の中で、適宜紹介する。			
〔教科書〕 森 秀夫 著 『中等 社会諸教科教育法』 学芸図書株式会社 刊				